

第5回琴浦町保育園・幼稚園のあり方審議会 会議概要

日 時 平成21年4月28日(火) 19時00分から21時00分
会 場 役場第1会議室

＝ 日 程 ＝

1. 開会

19:00～

2 新委員自己紹介

学識経験者 黒見恵子委員

学識経験者 桑本詔司委員

3. 会長あいさつ

皆様こんばんは。大変お忙しい中お疲れ様です。

本日で本会も第5回目となりました。そろそろ、具体的な話しへと入っていきたいと考えております。

その手法として、本日は、本委員会を3つのグループに分けたらどうかと思います。

今日は、これまでに皆様から出していただいたご意見を事務局でまとめたものを準備していただいております。この資料に基にして、①幼稚園のことについて、②東伯地区の保育園について、③赤碕地区の保育園について話していただくグループに、それぞれ分かれて話し合っていただけたらと思います。

① 幼稚園については、東伯側に一箇所しかありません、今後の運営方針をどうすればよいかといった課題を話し合っていただけたらと思います。

② 東伯地区の保育園の場合は、少子化の問題、施設の老朽化の問題、運営方針の問題等の課題があると思います。

③ 赤碕地区の場合も少子化の問題、運営方針の問題等があるかと思っています。

それぞれのグループで議論していただいたものをまた、後で持ち寄っていただき皆さんからご意見をいただくという方法をとりたいと思いますがいかがでしょうか。

そうしたほうが、皆様の意見を集約しやすいのではないかと考えております。その中でだされました、意見をたたき台として、今後議論を深めてもらい、話し合いをしていければと思います。

4. 議 事

【資料説明】

- あり方審議会意見等一覧
- 指定管理者制度等について

- ・ それでは、意見等一覧をごらん頂きたいと思います。これまで、皆様から出していただいたご意見を集約しました。

ここに記載している以外でもいろいろと出していただいていると思いますので、それぞれの項目を各グループで審議していただく中で、付け加えてもらうなどして、深めていただければと考えております。

大項目として5項目に分け、中項目として11項目に分けております。広範囲にわたって分析していただかないといけません、よろしくお願いいたします。

- ・ 「現状と課題」中の延長保育の実施について、公立保育園は一般財源化とありますが（私立分のみ）説明をしてもらえませんか？
- ・ 延長保育の事業は、ご存知のとおり、町内全ての園が、11時間以上保育を実施しておりまして、以前は補助金として国・県補助があった制度ですが、平成20年度からこの延長保育事業については、次世代支援対策ソフト交付金として、私立の保育園のみの補助となってしまいました。公立保育園には、補助がなくなりました。
- ・ 以前ありました財政問題にさかのぼった話になりますが、一般財源化ということは公立保育園にも交付税として財源が入ってくるわけで、全くゼロではないでしょう。
- ・ 確かに、交付税の中には、園児一人当たりでいくらといった算定基礎計算になっておりますので、全くゼロではありません。ただし、これまでのように延長保育の事業は人件費見合いの補助金として、財源の確保ができておりましたが、その意味では、補助金はもらえなくなるとご理解ください。
- ・ これまでの説明でありましたとおり、公立保育園の措置費等については、交付税措置により歳入されますが、不透明な算出根拠となっておりますので、以前のように満額が入ってくるわけではありません。
- ・ 交付税そのものが減っておりますので、町全体で歳入が減っているということです。
- ・ 前回、ご指摘いただいた、指定管理者制度の説明資料を添付しておりますので、ご確認ください。
- ・ 議事には5つの項目がありますが、これは、各グループに分かれて話し合うわけですか？
- ・ はい、それぞれ項目にそって、課題の整理をしていただければと思います。

3 各グループに分かれて討議

【幼稚園】

油野会長 榎田副会長 谷本委員 鍛川委員 谷口委員 岡本委員

【東伯地区の保育園】

倉光委員、定常委員、桑本（康）委員、篠原委員、桑本（詔）委員、前畑委員、小谷委員

【赤碕地区の保育園】

高力委員、小庭委員、戸田委員、明石委員、黒見委員、田中委員、鉄本委員

4 全体の会

【幼稚園】

- ・ 結論として、保育園と幼稚園は保育園に一元化する方向で検討すべきである。
- ・ 保育園と幼稚園の区別がはっきりしないし、琴浦町が現在進めている、保幼少中と一貫した教育を目指している中であって、それぞれが連携し一貫した流れの中で子どもが成長していかなければなりません。そういった意味からも、保育園と幼稚園をひとつにして、保育の部分と教育の部分をしっかりと育くむ体制づくりが必要

だと考えます。

- ・ 八橋保育園の園舎も地盤沈下がすすみ早急に建替えが必要であると思います。どこか別の場所に新たに建設し、保育園の保育の部分、幼稚園の教育の部分をしっかりと進めて行って欲しい。

【東伯地区の保育園】

- ・ 少子化が進みすぎることによる子どもたちの成長への影響を考えたとき、あまりにも少なすぎると問題である。
- ・ 実際に学校で少人数の子どもを教えてきたが、例えば、体育の授業を実施する際、低学年と高学年が一緒に行うとどうしても成長段階に応じた指導ができないので、子どもたちの成長に偏りがでる。
- ・ 保育園でも、以上児で一クラス 10 人程度の集団生活が出来ていた頃は、なんでも出来る活発な子どもが多かったが、混合クラスでも少なすぎると園児の活動そのものに影響がでてきているし、その子どもたちが、中学校に上がったときに集団生活になじめなかったり、社会性が育てていない場合に不登校になったり、とても悪影響が出ている。
- ・ 周りの大人が考えることと実際に子どもの成長のためにどうすればいいのかということとは異なっているように思う。
- ・ 古布庄保育園は今年度 13 名です。今後増えることは考えられない。
- ・ 子どもはやはり地域で育て、大人になってそして、地域に帰って欲しいという思いがある。地域に保育園がなくなれば、寂しくなる。
- ・ 重要なことは、次世代を担う子どもたちのために何をしなければならないかであって、大人の思いを主張するあまり、子どもたちに悪影響があってはならない。
- ・ 次世代を担う子どもたちをどう育てるかであって、地域の範囲「地域」の捉え方は人それぞれだと思うが、あまり狭い範囲にこだわる必要はないのではないか。
- ・ 八橋保育園・逢東保育園は、施設的に老朽化が進み早急に建替える必要があると思う。
- ・ 公設により、補助金がでないとなると民間に委ねることになるのでしょうか？
- ・ 個人的には公立は公立の良さがあると思うし、保育の質を下げるようなことはして欲しくないなので、出来れば公立で、新たに建設していただきたい。
- ・ 保育園を選んだ際、逢東保育園の園舎は確かに古いし狭かったけれど、園庭には芝生が植えてあったり、一方通行で不便だとは思いません。交通量も少なく静かだし、園全体がまとまりがあってとても雰囲気よかったので、そこを選んだ保護者もある。
- ・ それぞれに各園ともいいところがあると思うので、仮に逢東保育園が、八橋・浦安に分かれてしまおうとしても、いい部分を残して行って欲しいと思います。
- ・ 確かに、施設の老朽化や交通の利便性を考えるのは大人であって、子どもたち自身はあまり意識はないであろう
- ・ 結局、保護者の考えで園を選びますが、新しい施設を見た後では、どうしても明るく温かみのある園、安全な園舎の中で育てて欲しいという思いになる。
- ・ 具体的にまとめると、やはり子どもの為をどうすればいいのかということを考えるべきである。
- ・ 狭い地域にこだわって、子どもの成長に影響があってはいけないと思う。
- ・ 次世代を担う子どもたちですから、狭い地域にこだわって、子どもたちの成長に悪影響があってはならないと思います。もっともっと未来を担う子どもたちのた

めに広い地域を考えるべきではないでしょうか。

- ・ 地域の範囲を限定するのは、人それぞれの価値観であって、ここ（審議会）では決められないのではないのでしょうか
- ・ ただ、確かなことは、これからの子どもたちの為に何が出来るかを一番に考えていかないといけないということです。一つのクラスに10人以下の少数では子どもたちに悪い影響がでてしまう実態がある。

【赤碕地区の保育園】

- ・ 以西保育園の園児が20人以下になるようなら、以西・成美・安田保育園を統合していく可能性もありますが、即統合という話にはならないと思います。
- ・ 以西・成美・安田保育園によりどこかを本園とする分園制度の導入も検討する必要があります。
- ・ 私立保育園の方が、公立保育園より経営努力をしているのではないか。
- ・ 給食に関する統合の検討も必要だと思います。
- ・ 赤碕地区にも認定子ども園のような施設が一つ必要なのではないのでしょうか。
- ・ 私立保育園の行っている園児のバス送迎を公立でも検討してはどうでしょうか。

【まとめ】

3グループに分かれることで、具体的な意見がでてきたように思います。今後は、事務局のほうで、この3グループの意見を集約した資料を事前に配布していただき、次回以降検討していきたいと思います。

5 閉 会

次回は、平成21年5月20日（水）19：00～